

土木計画学研究委員会報告

平成20年6月7日
ランチオンミーティングにて

(1)平成19年度 土木計画学研究委員会 委員構成

委員長	北村隆一	(京都大学)		
副委員長	苦瀬博仁	(東京海洋大学)	新田保次	(大阪大学)
学術小委員長	喜多秀行	(神戸大学)		
学術小副委員長	清水英範	(東京大学)		
小委員長	石田東生	(筑波大学)	内山久雄	(東京理科大学)
	黒田勝彦	(神戸市立工専)	小林潔司	(京都大学)
	谷口栄一	(京都大学)	塚田幸弘	(国土交通省)
	西井和夫	(流通科学大学)	藤井 聡	(東京工業大学)
	宮本和明	(武蔵工業大学)	村橋正武	(立命館大学)
幹事長	屋井鉄雄	(東京工業大学)		
委員	石川雄章	(東京大学)	新谷陽子	(北海道開発技術センター)
	高久寿夫	(鉄道・運輸機構)	高野伸栄	(北海道大学)
	武山 泰	(八戸工業大学)	田中倫英	(国土交通省)
	中井秀信	(東京電力(株))	中野雅弘	(大阪産業大学)
	水谷 誠	(国土交通省)	山本晴夫	((株)長大)
委員兼幹事	石倉智樹	(国総研)	小根山裕之	(首都大学東京)
	加藤浩徳	(東京大学)	菊池 輝	(京都大学)
	小池淳司	(鳥取大学)	小早川悟	(日本大学)
	寺部慎太郎	(東京理科大学)	波床正敏	(大阪産業大学)
	花岡伸也	(東京工業大学)	矢部 努	(計量計画研究所)

(1)平成20年度 土木計画学研究委員会 委員構成

委員長	石田東生(筑波大学)	
副委員長	新田保次(大阪大学)	桑原雅夫(東京大学)
学術小委員長	原田 昇(東京大学)	
学術小副委員長	森川高行(名古屋大学)	
小委員長	内山久雄(東京理科大学)	山中英生(徳島大学)
	黒田勝彦(神戸市立工専)	小林潔司(京都大学)
	谷口栄一(京都大学)	喜多秀行(神戸大学)
	西井和夫(流通科学大学)	藤井 聡(東京工業大学)
	宮本和明(武蔵工業大学)	多々納祐一(京都大学)
幹事長	屋井鉄雄(東京工業大学)	
委員	石川雄章(東京大学)	藤原章正(広島大学)
	高久寿夫(鉄道・運輸機構)	辻本勝久(和歌山大学)
	田中倫英(国土交通省)	青木 英明(共立女子大学)
	水谷 誠(国土交通省)	宇佐美誠史(岩手県立大学)
	前田信幸(建設技術研究所)	
委員兼幹事	石倉智樹(国総研)	菊池 輝(京都大学)
	寺部慎太郎(東京理科大学)	波床正敏(大阪産業大学)
	花岡伸也(東京工業大学)	矢部 努(計量計画研究所)
	岡村敏之(横浜国立大学)	小川圭一(立命館大学)
	佐々木邦明(山梨大学)	羽藤英二(東京大学)
	福田大輔(東京工業大学)	松島格也(京都大学)

○WSの設置申請

- ・地域のための景観マネジメント研究ワークショップ
(代表:佐々木葉, 早稲田大学)
- ・土木計画のための行動理論研究ワークショップ
(代表:佐々木邦明, 山梨大学)

○小委員会の設置申請

- ・社会・経済リスクの下での長期的な社会基盤政策の理論研究
(小委員長:小林潔司, 京都大学)
- ・安心安全かつ健康快適な社会を創造するロジスティクスシステムに関する研究小委員会(小委員長:谷口栄一, 京都大学)
- ・地域防災システム研究小委員会
(小委員長:多々納裕一, 京都大学)

○国際セミナーの活発化(依頼)

○ワンディセミナーの開催(依頼)

(2) 土木計画学研究委員会における 今後の集中検討課題について

(1) 集中検討課題の概要

① 論文集再編を前提とする研究分野別理念の確立

(研究分野の重点方向検討を含む)

② 地球温暖化対策など学会総力戦(重点課題)

へのリーダーシップ形成

③ 産官学の総力戦(社会制度設計)と学の役割の再認識

(学会中期計画への積極対応を含む:

①計画・制度, ②地球環境, ③社会決定プロセス他)

④ その他(委員会の組織改正, 資格制度との連携方策など)

(3) 土木学会の行動計画の更新



「JSCE2010

— 社会と世界に活かそう土木学会の技術力・人間力 —」

JSCE2010*の期間は2008年から2012年までの5年間

* 土木学会が5年ごとに策定している活動目標と行動計画
JSCE2010は、JSCE2000、JSCE2005に続く第3次計画

JSCE2010における

3つの使命と4つの重点目標

学術・技術の進歩への貢献

1. 地球温暖化対策等分野横断的、
総合的課題解決への積極的取り組み

国内・国際社会に対する責任・活動

2. 公正な立場からの専門的知見の提供

技術者資質と顧客満足度(CS)の向上

3. 技術者支援
4. 学会運営の適正化・効率化と分かりやすさ
の向上

土木計画学研究委員会に特に関わる行動計画 ①

学術・技術の進歩への貢献

地球環境持続性に関する技術の確立

環境目標・基準の設定

持続型社会の構築に資する技術の研究

地球温暖化緩和・適応技術の確立

環境評価技術の確立

地球環境持続性に関する技術を確立するためには、人口変化、経済成長、社会基盤整備等が環境に与える影響を正確に把握し、それを踏まえた評価を行うことが必要である。

各要因が環境に与える影響に関する計測技術および環境評価のための技術を確立する。

土木計画学研究委員会に特に関わる行動計画②

学術・技術の進歩への貢献

都市再生に資する技術の確立

計画・制度、社会基盤施設の維持管理など

要素技術の確立

都市再生に資する様々な要素技術について研究を推進し、計画・制度、防災、生態系の保全・再生、社会基盤施設の維持管理、社会情報マネジメント、市民との連携手法のそれぞれの観点からこれらを拡充する。

また、安全で快適な都市空間の創造に向け、物質循環過程の基本となる流域圏を単位とした視点を持ち、土木計画学と水工学の連携のような分野横断型の共同研究を推し進める。

土木計画学研究委員会に特に関わる行動計画 ③

国内・国際社会に対する責任・活動

(公正な立場からの専門的知見の提供)

良質な社会基盤整備への貢献

適正な社会決定プロセスの支援・提言

社会基盤の計画段階から適正なプロセスを確立することによって、社会が必要とする良質な社会基盤の整備・維持・更新が行えるよう支援および提言を行い、同時に社会基盤整備等の計画から実施段階に至る合意形成過程へ積極的に関与する。

(3) 検討スケジュールと体制(その1)

従来の検討

- ① 計画学幹事会および幹事会WGでの集中討議
(2008.1-2008.6)
- ② 計画学春大会(札幌)での全体セッションの開催
(幹事会主催) (昨日開催)
- ③ 計画学委員会主催のシンポジウムの開催
(公募による発表) (明日開催)

全体セッション
「土木計画学の責務と
これからの土木事業の意義を考える」

平成20年6月6日(金) 12:15-13:45

パネラー(敬称略):

石川雄章(東京大学特任教授, 委員)

加藤浩徳(東京大学准教授, 幹事)

藤井聡(東京工業大学教授, 幹事)

水谷誠(国土交通省港湾局振興課民間連携推進室長, 委員)

司会: 屋井鉄雄(東京工業大学教授, 幹事長)

全体セッション(パネル)の議論

第1ラウンド

「土木計画学の責務と課題」に関する討議

第2ラウンド

合意形成問題や世論問題などを踏まえた「土木事業の意義」
を取りまく討議 (維持・更新, ソフトや総合的戦略などを含む事業)

第3ラウンド

土木計画(土木事業)のなかみと形
これからの「かたちづくり」と「なかみづくり」, また
その際の、多様な価値への向き合い方
などを核に, 自由な討議

新しい土木計画学を考えるシンポジウム

平成20年6月8日(日) ～明日開催！(まだ残席少々あり)～

9:00～15:00 (8:45より受付開始) 参加費2000円

【プログラム】

9:00-9:15 開会挨拶(発起人・北村土木計画学前委員長)

9:15-10:35『土木計画学の技術的側面』(発表15分+議論20分)

羽藤英二(東京大学)「モデルとデータ」

森川高行(名古屋大学)「需要予測への挑戦と課題」

桑原雅夫(東京大学)「交通工学と計画の融合について」

小池淳司(鳥取大学)「社会資本整備評価の現状と課題」

10:45-12:05『土木計画学の実践的側面』(発表15分+議論20分)

寺部慎太郎(東京理科大学)「土木計画学における市民参加研究の意義」

佐々木葉(早稲田大学)「地域ヴィジョンの構築と実現のための景観計画」

土井勉(神戸国際大学)「まちづくりと土木計画学的な仕事」

久保田尚(埼玉大学)「『土木』『計画』『学』はまちづくりになにができるか？」

12:45-14:25『土木計画学の輪郭を考える』(発表15分+議論25分)

加藤浩徳(東京大学)「土木計画学の国際化の意義と展望」

新田保次(大阪大学)「福祉のまちづくりの実現に貢献する土木計画学とは」

藤井聡(東京工業大学)「社会科学を踏まえた土木計画学の新しいかたち」

秀島栄三(名古屋工業大学)「政策立案技術としての土木計画学」

原文宏(北海道開発技術センター)「土木計画学の実務への活かし方」

14:25-14:50 全体討論 (司会:屋井幹事長)

14:50-**15:00** 閉会～土木計画学研究委員会のこれからの取り組みについて～(屋井)

(3) 検討スケジュールと体制(その2)

今後の検討

④ 計画学委員会の特別小委員会(仮称)の設置検討の提案
(活動最長2年間)

⑤ 夏合宿の開催(2008.7.26-27) 場所未定

委員会の現体制に加えて、過去にコミッティ制の
議論等に関わっていたメンバーによる予備的検討

⑥ 特別小委員会(仮称)への委員公募(2008夏以降)

⑦ 中間報告会の開催(2009春大会時の全体セッション等の活用)

⑧ 小委員会の最終報告・提案

(2009秋頃から2010春にかけてシンポジウム開催)

⑨ 計画学委員会としてのアクション開始

(中間報告以降, 実施可能な内容から)